



向かい風に立つ

行く手に「困難なこと」と「楽なこと」があったらあなたは、どちらを選びますか？
多くの人「楽なこと」を選ぶのではないのでしょうか。

ここで、困難なことを乗り越えるための方法について考えてみましょう。「青少年育成センターだより」189号、190号で紹介した伊集院静さんの言葉を紹介します。

ふいてくる風が頬や胸板にあたるなら、むかい風に立っていることを学びなさい
目の前に登り坂と下り坂があったら、一度は（いや二度でも三度でも）自分から選んで登り坂を歩きなさい。

どうしてそんな辛い、苦しいことをしたほうがイイと言うのか。変でしょう？

でも登り坂を歩きながら、少しだけ息苦しさもある中で、もう一步、いやもう一步登ってみましょう。きっと何かが、そこにあるかもしれないから・・・。

むかい風に立っていると、誰かの声が聞こえてくる時があるそうです。

「頑張れ。少し見えづらいが、目を開いてごらん。何が見えますか？」

見えたものは十人十色、皆違っているそうです。でもたしかに何かが見える気がします。

私たちの生きていく道は、やってみなければ見えないもの、出逢うことができないものがたくさんあります。

「風の中に立て -伊集院静のことば-」 講談社

伊集院さんは、試練のことを「向かい風」「登り坂」という言い方をしています。

生きてると様々なことが起きます。楽しいことやうれしいことばかりであればいいのですが、時には、悲しいこと、苦しいこと、困難なこと等のように起きてほしくないことも私たちに降りかかってきます。得てして、そのような試練に出会ったときには誰もがそのことから逃げたくなるものです。そこで、伊集院さんは登り坂（試練）を登り切るためには、駆け上がろうとするのではなく、一步、一步、踏みしめながら登ることが大切だと上り方について教えてくれます。

山登りの好きな人は、苦勞して登った後の景色のすばらしさを知っておられることでしょう。それを伊集院さんは、「登り切った後には何かがあるかもしれない、登り切らないとその何かに出会えない」と言い、上りきることの大切さについて教えてくれます。

大人だけでなく、子どもにも試練があります。試練に立ち向かい、乗り越える気力を身につけてほしいものです。その気力は、色々なことにチャレンジし、成功体験を積むことで身につくものなのです。親としてできることは、子どもが困難なことに向かっているときには手を貸すのではなく、立ち向かう姿を見守ってやることです。そして、くじけそうになった時や失敗したときに、背中を押す声かけをしてやることなのです。

子どもに素晴らしい景色を見る経験をさせましょう。

“天は試練を与えてその人を試す”

“天はその人の魂を磨き、人格をさらに成長させるために試練を与える”